

研究所の概要

人工知能技術の各種分野への応用手法が近年確立してきているが、さらなる多分野への適用や複合分野の融合手法やその実現手法については、さらなる研究が必要とされる。具体的に、近年注目を集めている、Cloud Computing、Crowd Computing、IoT、Big Data、インタフェースなどの各種技術は、人工知能技術を有機的に活用でき、極めて広い分野での適用が期待できる。また、これらの技術は、人間、組織、社会において関わりが深く、サービスの観点においても研究が必要である。とりわけ、サービスマネジメント、サービスマーケティング、サービスエコノミクスおよびビジネス的議論が必要不可欠であり、技術的観念および社会的観念の融合が必要であると予想される。そこで、横断的、学際的な観点を取り入れつつ、次世代の人工知能研究を牽引し、社会活動を効果的に支援することを目的とする。



所長

松尾 徳朗

MATSUO Tokuro

令和2年度の実施項目

- サービスと技術の融合によるビジネスイノベーションの実現手法の研究促進
- 学術的成果の社会還元を通じた科学技術啓蒙活動
- 産学官金連携に基づく新市場創造
- 国内外を含めたアウトリーチ活動

令和元年度の研究活動内容及び成果

1. アセアン地域高等教育機関における高度専門職人材育成プログラムの実現方式に関する調査分析

・ASEAN 地域において、産業技術に関する教育システムが各国で存在しており、特に高等教育を修了した学生の多くは企業で働く工学研究者、技術者（engineer、technician）が含まれる。しかし、従来の技術者の業務内容や環境は、IT 業界をはじめとする近年の新たなビジネスのプロセスにより変革を迎える時期に来ている。申請者らは本学の教育プログラムをベースとして新規に専門職人材を育成する教育プログラムを開発し、これらの効果について複数の大学において講演を実施した。職業大学（Vocational university）および研究大学において、サービス科学、ディープラーニング、観光科学、Industry 4.0 およ

び Society 5.0、研究者倫理などをテーマとして講演を実施し、受講者に対してアンケートを実施した。